



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.381

2022(令和4)年9月30日(金)発行



■ **はらまち九条の会** は、戦争放棄の憲法9条を守り、永久に「戦争をしない国・日本」であることを願い、「鈴木安蔵の出身地の九条の会」を誇りに活動する自由な市民の会です。支持政党や宗教を問わず、何の拘束もなく、匿名でも入会できる気軽な会です。■結成は2005年12月。今年で17年目。隔月で会報を発行。■会員は南相馬市原町区を中心に380名。
 ◀本会のシール(デザイン: 朝倉悠三さん) ■会費は年千円です。

重なっている自民党改憲案 と旧統一協会側の主張

<旧統一協会A>の主張を<自民党B改憲案>に成文化?

憲法改正や家庭政策などをめぐる自民党と旧統一教会側の主張や立ち位置

自民党	旧統一教会の友好団体「国際勝共連合」
4項目 ● 自衛隊明記 ● 緊急事態条項 ● 参院選合区解消 ● 教育無償化	3項目 ● 自衛隊明記 ● 緊急事態条項 ● 家族保護
環境が厳しさを増す中、敵基地攻撃能力保有も含め検討し防衛力を抜本的に強化	共産独裁国家から日本を守る。政府の敵基地攻撃能力保有の取り組みを評価
主要政党で唯一、導入に賛成せず	選択的夫婦別姓 「日本の婚姻・家族制度の根幹を揺るがす制度」と批判
家庭教育支援法制定を公約	家庭教育支援条例法を推進

7月8日の安倍晋三元首相の銃撃死以来、自民党議員らの政治家と「世界平和統一家庭連合(旧統一協会)との密接な関係が明るみになり批判を浴びています。

特に、私たち現在の日本国憲法を大切に護っていこうとする者にとって、<自民党の改憲案>が<旧統一協会>の主張と重なっていることは大問題です。

本当によく似ている「改憲案」

<左表>は、9月6日『朝日新聞』のコピーです。自民党改憲案の4項目のうちの2項目「自衛隊明記」「緊急事態条項」がぴったり同じです。安全保障についても「敵基地攻撃能力の保有」と文言が重なり、夫婦別姓問題では<協会>と同じで自民党としても導入反対です。家庭教育についても<協会>の主張をそのまま「家庭教育支援法」制定を公約するなど、まるで<旧統一協会>の主張を自民党はそのまま政策に反映させたり、<改憲案>に成文化したかのように思えてきます。

<旧統一協会の主張>と<自民党改憲案>の関連について、私たち一般市民はただ「似ている」という程度ですが、専門の憲法学者はどう分析し、解説されているのでしょうか。

どなたか、事務局へご教示ください。

「統一教会」、正しくは「統一協会」です

「世界平和統一家庭連合」は1954年に韓国の文鮮明により創設された宗教団体・法人で、旧名称は「世界基督教統一神霊協会」、旧略称は「統一協会」でした。その後、普通のキリスト教会を装うために「統一教会」に変え、メディアにも執拗に「統一教会」と表記するよう求め、現在は「統一教会」が一般的な呼称です。しかしカトリック教会もプロテスタント教会も、また政党では日本共産党も初めから教団を反社会的カルト集団と本質を見抜いていて厳しく非難を続け、一貫して「統一協会」と呼んできました。■ですから、本会会報ではこの号から、「世界平和統一家庭連合」の略称は「統一協会」と記録することにします。

《11月3日原町の毎年の恒例行事・原ノ町駅通りの歩行者天国》
サポセンフェス<あきいち2022> 今年、本会是不参加です
 事務局員それぞれの都合がつかず、今年は本会の参加を見合わせました。ご理解ください。

どうなるのか<統一協会>と<政治や政治家>との癒着

旧統一教会を追い続けた

俳優 中村敦夫

2017年12月2日、本会主催の朗読劇「線量計が鳴る」で熱演された中村敦夫さんのインタビュー。

○統一教会に1970年代から関心を持った。監督として社会問題の映画をつくろうと題材を探していたら、統一教会（原理研究会）が駅前や大学構内で懸命に勧誘していた。



○統一教会を調べると、朝鮮半島を植民地支配した日本は韓国に貢ぐべきべきだとか、でも反共産主義で岸信介元首相とつながっていると、支離滅裂に感じました。

○ニュースキャスターとして93年に教団をテレビで批判し、98年参院議員になり統一教会対応を質してきた。教団は信者を使い、選挙を通して政治家と関係を深めていったのです。

○安倍晋三氏は官房長官の頃に友好団体の集いに祝電を送り、最近もメッセージを送っていた。祖父の岸信介氏以来の選挙マシンとして実用性はあったでしょう。でもあれほど愛国心を唱えながら、なぜ日本で社会問題を起こす集団とつながり続けたのか。（安倍氏の殺害後）安倍氏を忖度してきた集団が右往左往している。政治家が劣化し、日本が劣化しています。

<9月24日『朝日新聞』（概略）>

国葬が「自民を弔う葬儀」に見える

作家 赤坂真理

○安倍氏の銃撃死後岸田文雄首相はとっさに『偉大な政治家が自民党にいた』ように『見せる』ための国葬を演出しようとしたのではない。何もうまくいっていないのにうまくいっているように『見せる』安倍氏の本質を岸田首相も無言のうちに引き継いでいる感じがする。

○自民党がもし本当の『保守』だったら市場自由化と改革に血道を上げず、『愛国』であつたら外国の軍隊が駐留することに賛成せず、日本を従属的な地位に置く旧統一教会>と手を組みません。

○この国葬はもしかしたら岸田政権の命取りになるかもしれません。安倍氏の葬儀のはずなのに、安倍氏の『死』は遠くに忘れられ、功績をたたえる声も、悲しむ声も聞こえなくなっています。もはや誰のための国葬か、決めた岸田首相にさえわからなくなっているのかもしれない。

○私には『自民党自体の葬儀』のように見えてきます。しかし、その後に何が起きるのでしょうか。自民党に代わる勢力もない中でこの空洞がどこに向かうのか。国民の正念場で、今が危ないと言える。

<9月20日『朝日新聞』（概略）・左右の記事は掲載文の転記なので、「統一教会」のままです>

クイズ よく似ているロゴマーク どちらが<自民党>でしょう？

A



B



<左>のロゴマークは、「明るい太陽のもと」や「神様の下」で自由な家族や人々の生きる様子を表現したとか・・・

さて、どちらが<自民党>で、どちらが<統一協会>のロゴマークでしょう？

（答は、表の面のどこかに隠れています）